

腎臓病教室だより

腎臓は人が生きていくためにたくさんの働きをしています。その腎臓の働きが、様々な原因で徐々に悪くなる病気を慢性腎臓病と呼び、日本では成人の8人に1人は慢性腎臓病の疑いがあると言われていています。腎臓病は自覚症状がない場合が多く、知らないうちに症状が進行してしまう慢性病のひとつです。病気が進行する前に定期的に健康診断を受け、早期発見・早期治療に努めましょう。

〈腎臓のはたらき〉



腎臓は、一般によく知られている“おしっこをつくる”働きの他にも、“骨を丈夫に保つ”“血圧を適切にコントロールする”“赤血球を作る働きを助け貧血を防ぐ”など、大切な働きをしています。

早期発見、早期治療を

腎臓病は進行してしまうと、失われた機能を取り戻すことはできません。しかし、早期に発見し、適切な治療を受けることで、進行を止めたり遅らせたりすることができます。また、腎臓病には腎臓そのものが悪くなる場合と糖尿病や高血圧から腎臓が悪くなる場合があります。糖尿病や高血圧を防ぐことで腎臓病を予防したりその進行を遅らせたりすることができますので、生活習慣の改善に努めましょう

腎不全の多くは自覚症状がありませんが、血液・尿検査で診断が可能です。定期的に健康診断を受けるようにしましょう。

尿検査で蛋白尿が指摘されたり、血液検査でeGFRが60未満の場合は、まずかかりつけ医にご相談ください。

